

最優秀賞

# せみのしゅるい

宮城県 聖ドミニコ学院小学校一年 草野 誉久

せみのこえをきくと、こころのなかがしずかになるらしい。山でらにいつてきたおばあちゃんがはなしてくれた。でも、ぼくは、せみのなきごえがきえると、こころのなかがあつくなくてきて、パワーがぜんかになる。ブラックシンカリオンバーサーカーモードぐらいになる。だからきょうも、せみとせみのぬけがらをさがしにいった。

おかあさんが、  
「かわいそうだから、とらなくていいから。」  
といって、むしとりあみをかけてくれない。だから、せみはきのしたからみてるだけ。「とりたくないー」  
っておもうけど。

でも、ぼくは、せみのぬけがらもだいすき。みつけると、たからものをゲットしたようなきぶんになる。

とるときは、あしがもげないように、そっと、は

っぱからとって、ふくにくっつける。ぼくのくんしようだ。からだじゅうにくっつけてかえると、おかあさんがノドジロオマキザルみたいなかおになっっておどろくから、ぼくはいっぱいわらっちゃう。たくさんみつけて、またおかあさんをおどろかさうかな。おじいちゃんは、

「せみのぬけがらとりめいじんだね。」  
といってくれる。めいじんなんて、いいきぶんだ。とってきたぬけがらは、おおきなびんにいれる。はやくいっぱいにならないかな。

ぬけがらのあしをポキポキとるのはおもしろい。ぎゅっとにぎるとカリッとつぶれて、ぼろぼろになる。これもすごくおもしろい。

「ずかんで、せみのいっしょうをみたらいいかもよ。」

とおかあさんがいった。せみのしゅるいはだいどく

い。でも、そんなページあったかな。こんちゅうのずかんをひらいて、いつもよんでいる、せみのページをひらいたら、せみのなかまのまえのページにあった。よくよめなくて、おねえちゃんによんでもらった。せみは、きにたまごをうむのか。つぎのどのつゆのころ、たまごからせみがかえるのか。じぶんできをおりて、つちにもぐるのか。アブラゼミはだいたい六ねんもつちのなかにいるのか。ぼくとおなじとした。それから、やっど、つちのなかからでてきて、きやはっぱにのぼってからでて、せみになるのか。うかっていうのか。うかがうまくいかないせみも、たくさんいるのだな。

ぼくは、たからばこに、きれいなかみをしいた。それから、びんのなかのせみのぬけがらを、いっぴきずつならべた。ぬけがらは、せみのくんしようだったんだ。むしとりあみも、もう、ほしくないや。せみのこえがきこえると、それからは、「がんばったね」っておもうようになった。

